

佐賀市 26 歴史探訪

た しろ つら もと けんしょう ひ ずい りゅう あん 田代陣基顕彰碑と瑞龍庵

田代陣基は、「葉隠」の筆録者として知られています。陣基は、佐賀藩士田代小左衛門宗澄の子として、延宝6(1678)年佐賀に生まれました。元禄9(1696)年、19歳のときから、3代藩主綱茂、4代吉茂のもとで^{ゆうひつやく}祐筆役(※)として仕えましたが、宝永6(1709)年に、理由は分かりませんが御役御免となりました。

山本常朝との出会いは、その翌7年のことで、以来7年間の歳月を経て「葉隠」を完成させました。陣基は、その後享保16(1731)年、54歳のとき、5代藩主の宗茂の時代に再び祐筆役になりました。

陣基は、寛延元(1748)年、71歳で没し、佐賀市田代の瑞龍庵に葬られました。墓碑には「松盟軒期醉之墓」と刻まれています。その後、彼の墓はどこにあるのか、人々から忘れ去られてしまいましたが、昭和19年に発見されました。

この発見を記念して、有志により碑が瑞龍庵に建てられました。その碑文には「田代陣基先生葉隠纂述記念之碑」と刻まれています。「陣基」と「陳基」。似て非なる文字であり、刻み間違いかと思われる人がいるかもしれませんが、漢和辞典を引くと、「陣」は「陳」の俗字であり、陣は戦乱などの際に用いるとあります。昭和19年に顕彰碑を建立する際、田代陣基への思いを込めて、本来の字を使用したものと思われる。

田代陣基は、山本常朝同様、葉隠を語るときにはなくてはならない人です。佐賀の「歴史的精神的遺産」である「葉隠」に接したいと思うときには、この瑞龍庵も訪ねてみませんか。

※祐筆役…藩の文書事務を担当した役職。



▲田代陣基の墓



▲墓碑の隣にある記念碑

▲「田代陣基先生」と刻まれています。

一口メモ

瑞龍庵の入口にも田代陣基の墓があることを示した石柱が建っており、ここにも「陣基」は「陳基」と刻まれています。



瑞龍庵入口の石柱

